

函館近辺で見られたアカネ類について

函館市 酒井 信

昨年の夏の終わり、観察の帰路、函館市郊外の耕作地脇の農道に立ち寄った。草刈りされた藪をのぞくと、他の植物に絡んで生育、藪状態になっているアカネ類が目に入った。アカネも比較的珍しいため、また当地では初確認であったため撮影しようと適当な場所、部分を探しているうち、葉が5、6枚輪生していることに気付いた。すぐにオオアカネではないかと思ったが、この地域は分布域でもなく、局地的と言うことで予想だにしない、まさかの思いであった。昨秋の残された日々、そして本年の探索では、過去にアカネと思い込みよく見ていなかった地点も再観察することとした。各地のアカネ類(アカネとオオアカネ)の探索を行ううち、函館山でも葉が5枚輪生するものが見つかった。函館山ではアカネ類は山麓を含め各地に散見される。さらに、北斗市でも同様なものが見られ、函館近郊に拡がっていることが予想された。各地に生育するアカネ類を見るうち、両種の区別は簡単ではないと思うようになった。あらためて、文献記載の両種についてまとめておく。

北海道の図鑑などによると、オオアカネ *Rubia hexaphylla* は胆振・日高の限られた地方に局地的に見られる。原(1981)は日高 平取町、梅沢(2018)は日高町で撮影の画像を掲載している。また、原松次植物標本コレクション目録(高橋ほか 2008)には日高町、穂別町、平取町が記載されている。これらの図鑑などには記載されてい

いが、函館山では、「函館山植物誌」にオオアカネが記載され、アカネの記載がない(菅原ほか 1959)。

一方、アカネ *Rubia argyi* は渡島地方に見られるという。原(1981, 1985)は函館市、および松前町での、梅沢(2018)は松前町での撮影画像をそれぞれ掲載している。滝田(2001)は函館採取の上記「函館山植物誌」の著者の一人、菅原氏による標本からアカネを描画している。原の上記標本目録の採取地も函館、および松前である。

各種文献の検索表によると、アカネ、オオアカネの区別は葉の輪生枚数、葉の大きさが基本となっている。各種図鑑に記載の葉の輪生枚数など葉の形態、両種の説明の主要な点を表1に示す。なお、検索表は表1の図鑑①～④に記載されている。

近郊各地の観察結果

輪生する葉の枚数は、オオアカネは4枚以上であり、アカネの4枚と重なっている。葉の大きさも、オオアカネはアカネよりは大きい、その数値の範囲は両種間でかなりの重なりが見られる。函館近辺には文献上も両種があると考えられるため、確実な方法でこの重なる範囲の個体の分別が必要となる。今回は、確認している葉が5枚以上輪生するものについて葉の大きさ他の形態を調べることに絞り、両種で重複する葉が4枚輪生するものの新たな探索は避けた。これまで確認している函館市郊外(A)、